

第 20 回 IPCO 環境技術分科会 議事録

2016. 12.15 藤井

日 時 : 2016 年 12 月 15 日 (木) 13:00 ~ 17:00

場 所 : 塗料報知新聞社 会議室

出席者 : 分科会長 : 窪井 要 ((有)久保井塗装工業所)

副分科会長 : 高橋大 (株三王)

幹 事 : 平野克己 (日本塗装機械工業会) 石井信行 (大塚刷毛製造(株))

稲田建 (株花菱塗装技研工業)

相 談 役 : 福田良介 (日本パウダーコーティング協同組合)

アドバイザー : 片山眞司 (J & S エンジニアリング(株))

藤井俊治 (株三菱化学テクノリサーチ)

坂井秀也 (坂井技術士事務所)

ゲ ス ト : 小澤洋一 (横浜化成(株)) 吉野和彦 (株明治機械製作所)

高橋善之 (大塚刷毛製造(株)) 須田威志 (株豊田自動織機)

望月徳三 (東京ガスケミカル(株)) 白石公郎 (株サトー)

小泉雄一 (株小泉塗装工業所) 国西聖次郎 (株小泉塗装工業所)

高畑和幸 ((有)シーティータカハタ) 松原出 (株大気社)

石井真里奈 (東京都環境局) 首藤隆利 (株テイト微研)

古野伸夫 (株ファインクレイ) 杉浦彦六 (シニュー技研(株))

事 務 局 : 有馬弘純、藤井謙二郎 (塗料報知新聞社) 25 名 敬称略

①分科会長挨拶

記念すべき第 20 回分科会を迎えました。

リスクアセスメントでは、色々なところに危険が潜んでいるのをしっかりと理解して、そのうえでいちばん安全な方法を取り入れるべきと考え行動します。しかし、これまで安全であっても、何か他の要因が介在すると、事故につながる可能性があり複雑です。静電気による着火など今起こったことでわからないことは、専門家と議論して、「知識の上書」をすすめていきたいと思います。

②初参加者挨拶

なし

③来年度の予定

・ ASTEC 出展 (2/15~17) の件 (IPCO 窪井)

今回の出展は見送り。今後については要検討。

・ 来年度活動

2017年6月21日が総会。IPCOセミナーの開催を念頭に、来年には具体的日程を発表。社団法人化も視野に入れてロードマップも立ち上げたい。人づくり・規格作りも、製品づくりと同じくらい大事。今後会員間で話し合っていきたい。

・その他

ASTECCは、IPCOの環境への貢献をアピールする場として出展を考えてみる。(高橋)
ラスコー展があったが人類最古の文明が残したものは塗装であり、現在では、塗装のおかげで炭酸ガスの発生量などは減っている。塗装が環境に如何にプラスになっているのか、対外的にアピールする場をつくりたい。(平野)

塗装に対する知識を検定する場などもあっても良いと思う。ただし、多様な塗料を検定するのはそれなりの困難も伴う。(窪井)

リスクアセスメントが今年のテーマ、何が危ないのか、ある程度の指針を今年度中に出したい。来月は相模原市の「化学物質セミナー」にて講師依頼を受けた。また、関東経済産業局圏内に向けた「VOCセミナー」で今年度も講師を務めることとなった、(三期連続)このセミナーにおいても、リスクアセスメント思考を盛り込んだものとした。(窪井)

④環境技術分科会プレゼン

④-1 デジタルマークによる塗装ライン生産管理

白石(サトー)

ビデオは現在制作中であり次回の発表に向け取材等行っている。自動認識技術の観点で、塗装業にアピール。他の塗装工場からも問い合わせあり。

効率化と環境面で、「効率化⇒環境対応」につながるというところをアピールしていきたい。

小泉(小泉塗装工業所)

今後は、装置画像とあわせて、機械を導入するだけでなく、成果をあげるための体制、導入の仕方もあるのだというところを発表。

④-2 塗装ブースにおけるスラッジ他のゼロ・エミッションを目指して

須田(豊田自動織機)

塗装排水汚泥処理3R改善活動状況の説明について説明。

④-3 分級ポンプ弁財天による塗装排水処理

古野(ファインクレイ)

本製品は塗装排水を分離分別する装置であり、特徴としては、気化物質を水域外に廃棄すること。EKフィルター不要ということもあり、普及に取り組んでいきたいと思う。

明日より久保井塗装でテスト

④-4 マイクロバブルによるVOC処理と炭酸ハイブリッド塗装システム経過報告

片山(J&Sエンジニアリング)

エアガンでも100%近い効率を得ることができ、エアガンの追求がおろそかになっているところがはっきりした。

④ー5 省エネに直結するシンユー技研の製品紹介

杉浦彦六（シンユー技研）

- ・芝浦処理場オゾンリアクター画像（オゾンリアクター2基で並列運転）
- ・酸素機能水

④ー6 厚生労働省関係・リスクアセスメントについての報告

藤井俊治（三菱化学テクノリサーチ）

- ・リスクアセスメントを確実なものとするには、現在、塗料缶にシールついている SDS ラベルについて、塗装現場での内容理解をより強化する必要がある。
- ・平成 28 年度厚生労働省委託：ラベル表示を活用した労働者の教育推進事業「職場教育担当者向け 現場作業員へのラベル教育の進め方ガイド」について解説。内容は、作業員教育者へのテキスト活用・教育方法について指導するもの。

<以下内容>

- 1.SDS ラベルのそれぞれの意味について
- 2.健康被害防止への取組（取り扱い物質の健康有害性とリスク低減策）
- 3.作業員への火災防止の取組指導：可燃物と火源の説明と火災防止

この他、NAPO（米国）の火災爆発／健康障害について作業員に分かり易く説明する動画「NAPO 012 Danger」（ファイル名）」も紹介。

次回開催は 2 月 16 日（木） 13：00 より塗料報知新聞社会議室にて。

以 上